

第3学年「てつがく」学習指導案

授業者 藤枝 真奈

2月21日（木）2階プレイルーム 10:00～10:40 話し合い10:55～11:45

1 題材名 生活の中から「本当におにたはおになのか。」

2 考える価値内容 世界

3 題材について

当たり前のことをあえて問うということをして「てつがく」で継続して行ってきた。そのことを通して、文学的文章の学習で作られる子どもたちの問いへの教師の見方が変わってきた。“そういうことになっているもの”，たとえば、文学的文章の設定や文化的背景としてあるものは、従来、問いとして出てきても、簡単に説明したり参考文献を紹介したりして、話し合いでは扱わないことが多かったが、本当にそれでいいだろうかと教師自身が問いのあり方を考え直すようになった。

国語の学習の内容を扱ったこの学級の「てつがく」として、2つ例を挙げる。詩作の前後に、『詩って何?』という絵本を読んで「詩とは何か」を話し合った。「詩にはリズムがある。」「詩は短い言葉で表す。」と自分の考えを交流していき、作文の方が好きだ、詩なんて苦手だと言っていた子どもたちが詩って自分が思っていたのと違ったと話していた。また、『わすれられないおくりもの』の物語を読み、そこから出てきた問い「体はなくなっても、心は残るのかな」を基に対話した。それぞれの経験を出し合う中で、「心が残る」という言葉の意味への理解が深まった。

先に実践した学級で『おにたのぼうし』を読み、問いを出し合ったところ、「なぜ、おにを悪いと思う人が多いのか。」「鬼にはこわいイメージがあるのに、何でおにたはやさしいの?」「本当におにたはおになのか。」といった鬼に関する問いがいくつか出てきた。本時では、実践学級の問いに基づきそれぞれがもつ鬼のイメージを共有し、鬼とは何なのかについて対話し、読み手である子どもたち一人ひとりにとって鬼とは何かを広げ、深めたい。〈2内容-(1)ウ、(3)イ〉本時の「てつがく対話」を通して、それぞれが読み手としてもっている前提を共有し、鬼らしくないおにたの物語を読む素地を育んでいく。

4 学習指導計画（1時間目／全1時間+国語）

- 初発の感想をもち、問いを立てる。 (1時間)
- 問いを整理し、学習計画を立てる。 (1時間)
- 物語の前提に関する問いを基に、対話する。 (てつがく1時間(本時))
- 問いを基に、人物像、おにたの変化、おにたと女の子のすれ違いなどを読む。 (5時間)
- 読んだことをまとめる。 (1時間)

5 本時の学習について

(1) 本時のねらい

文学的文章を読んで出てきた問いについて、話し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 問いを確認する。	・サークルの形になって対話をする。 ・「おいてきぼり」をつくらないように対話を進める。 ・聴くことを意識しながら対話に参加する。
2 対話する。	・必要に応じて、以下のことを行う。 訊くことにより、言葉の意味を明確化する 考えの背景や根拠を問う／対話の内容の整理や確認を行う
3 本時をふり返る。	・ふり返りは、次時に印刷して共有する。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

文学的文章の読みへ「てつがく対話」を取り入れることについて